

## 第3回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 議事録

日時：平成22年2月17日(水) 15:00～16:50  
場所：三木市中央公民館 出席者：別紙のとおり

### 開 会

#### (1) 第2回協議会議事録の確認

- ・ 第2回協議会の議事概要について、議事録の確認がなされた。

#### (2) 報告事項

- ・ 以下の事項について、事務局から報告があった。
  - ① アンケートの実施結果（速報）
  - ② パブリックコメント実施状況

#### (3) 議 事

- 議案1号「神戸電鉄粟生線 地域公共交通総合連携計画（案）」における実施事業の具体的な内容（案）

○ 議案1号について事務局より以下の報告があった。

- ① 第2回協議会で出された利用促進アイデアの確認
- ② 調整開始もしくは実施している取り組みの説明
- ③ 具体的な取り組み施策案（体系表）の説明

○ 座長より委員に意見を求めたところ、以下の意見が出された。

<情報発信について>

- ・ 企画きっぷのPRが十分でないため、自治会掲示板への案内掲示などの協力をしているが、そのほか、自治会の新聞で情報提供したり、老人会等へ鉄道利用の企画を提案してはどうか。
- ・ 高齢者に、切符購入の手間がかからない「PiTaPa」をもっとPRしてはどうか。
- ・ 他地域の事例として報道されていたが、駅周辺マップに駅まで歩いた場合の消費カロリーを表示するなど、情報発信の工夫を考えてはどうか。

- ・ 粟生線や接続するバスの運賃・ダイヤ情報を、乗り継ぎ情報検索サイトに提供すればどうか。
- ・ 鉄道利用者以外にPRができていないため、人が集まる場所に情報提供する仕組みを検討する必要がある。

#### <利用者の理解促進について>

- ・ 昼間に空いている列車が運行されているのは利用者からも理解が得られないので、短編成化に取り組んでもらいたい。

#### <駅へのアクセスについて>

- ・ 駅前に駐車場が整備されれば鉄道利用促進にも効果的と思われる。
- ・ 駅までのアクセス手段として、地域の自主運行バスの導入が考えられないか。

#### <新しいサービスについて>

- ・ 閑散時間帯でのサイクルトレインを検討してはどうか。
- ・ 観光誘致や都市部との交流促進のために、他地域にはないオンリーワンの商品・サービスが生み出せないか。(例えば電気機関車やトロッコ列車など)
- ・ 他には無い特定の商品を駅で販売するとか、特定の列車(例えばデザイナーによるギャラリートレインなど)を走らせるとか、行ってみたいと思わせる差別化が必要ではないか。
- ・ 話題性のある列車などは、必要となる費用も考慮して、できる範囲で考えていきたい。

#### <地域との連携について>

- ・ 加古川線等利用促進・沿線地域活性化協議会では、駅を中心とするイベントや、沿線外(三宮、明石、姫路各駅)での沿線ガイドの配布、スタンプラリーなど地道な活動を行っており、粟生線の取り組みとも一層の連携を図っていきたい。
- ・ 粟生駅の陶遊館のように、駅における情報発信や地域の取り組みの拠点を整備、活用することが必要ではないか。
- ・ 行政や事業者に加えて地域の方が参加しやすい環境・メニューの整備が必要であり、まずは地域ぐるみで取り組むきっかけとなるイベントの実施を考えるべきではないか。

#### <効果を高めるための視点について>

- ・ 各施策を沿線内と沿線外を対象とするもの別に整理するなどして、効果の見込まれる実現可能なものから実施していくべきではないか。

- ・ 利用者が選択できるよう、企画きっぷを組み合わせた沿線施設への旅客誘致など、多くのモデルメニューを提供する必要があるのではないか。
- ・ 地域住民との協働や定期利用者の増加のため、駅へのアクセスバス、小学生などへの乗り方教室、自治体職員や沿線企業の公共交通利用促進などが特に重要と思われる。
- ・ 最終の計画としては、どのような時期に、誰が、どのような効果を見込んで施策を実施していくのか整理する必要がある。

○ 座長より以下のコメントがあった。

- ・ 現在の 680 万人から 3 年間で目標の 730 万人まで、いかに 50 万人の利用者を増やすか、様々な取り組みの中で効果のあるものをしていく必要がある。そのためには、地域住民の協力や行政のエコ通勤の推進など、自らがやることをやっていかないと目標達成は難しい。
- ・ 利用者増加は、車からの利用転換と新規需要創出の二つを、いかにうまく組み合わせていくかということであり、特にエコ通勤や高齢者への働きかけは重要である。
- ・ これまでは利用促進のための情報提供が十分ではなかったため、口コミも含めた能動的な情報発信や、(カロリー表示マップのように) きめ細かな工夫やターゲットを絞った効果的な情報発信に取り組む必要がある。
- ・ 神鉄においても、鉄道部門だけでなく沿線に展開する商業施設「食彩館」とも連携した利用促進の取り組みを考えてもらいたい。

## 閉 会

(第 4 回協議会 3 月 2 5 日 三木市立教育センターにて開催予定)

以上